

## 2023年のビワマス引縄釣りの資源への影響

大前信輔

### 1. 目的

遊漁を中心に近年盛んになっているビワマス引縄釣りの資源への影響を把握するため調査を行った。

### 2. 方法

引縄釣り捕獲魚の年齢・体長組成を調査し、刺網漁獲魚と比較した。また、琵琶湖海区漁業調整委員会事務局の調査による2022年12月～2023年9月の捕獲量(漁獲量および遊漁による採捕量)と別途調査による資源構造<sup>1)</sup>から引縄釣りの資源への影響を評価した。

### 3. 結果

漁法別年齢組成を表1に、体長組成を図に示す。捕獲魚の漁法別の平均年齢、平均体長は刺網が2.9歳、43.7cm、引縄釣りが2.4歳、39.2cmであり、後者が若齢で小さかった。2023年の引縄釣り捕獲魚は、全長30cm以下の採捕が禁止となった2017年から2021年までの引縄釣り捕獲魚の平均年齢(2.2歳)と平均体長(37.3cm)をわずかに上回った。

2023年の刺網漁獲量は12.7ト、引縄釣り捕獲量は38.8ト(漁業：9.4ト、遊漁：29.4ト)となり、引縄釣りが前年に引き続き刺網を上回った(表2)。引縄釣りによる捕獲量は2020年以降増加が著しい。特に遊漁による採捕量が増加しており、2023年には捕獲量の6割近くを占めた。

滋賀県漁業協同組合連合会が実施する親魚からの採卵事業において、10万粒の採卵に要した日数は1.04日と前年から若干増えたが引き続き短期間となっており、親魚量は豊富であったと考えられた。

2023年10月～11月に採捕された回帰親魚の年齢組成は3歳以上の占める傾向が続き、

本報告は水産庁からの令和5年度水産資源調査・評価推進委託事業の成果の一部である

引用文献 1) 大前(2025)：ビワマス資源の年齢・体長組成(2023年)、令和5年度滋賀水試事報(本誌)。

2) 大前(2025)：ビワマス資源量の推定と評価(2023年)、令和5年度滋賀水試事報(本誌)。

資源構造の若齢化はなく<sup>1)</sup>、資源減少の兆候もないことから<sup>2)</sup>、引縄釣りの資源への影響は顕著ではないが、近年は遊漁の採捕量が増加しており今後の遊漁や資源の動向には注視が必要である。

表1 捕獲魚の漁法別年齢組成(%)と平均年齢

漁法\年齢	1	2	3	4	5	平均年齢
刺網	2.1	33.0	44.3	16.4	4.3	2.9歳
引縄釣り	14.2	44.9	30.9	8.3	1.8	2.4歳

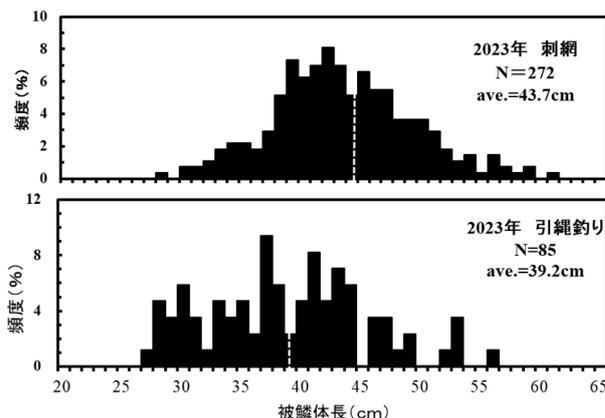


図 漁法別採捕の体長組成 (図中の破線は平均)

表2 漁法別目的別採捕量の推移 (琵琶湖海区漁業調整委員会事務局調べ)

西暦年	捕獲量 トン(%)				合計
	刺網漁業	引縄釣り漁業	引縄釣り遊漁	引縄釣り合計	
2017年	18.4(57.9)	4.7(14.8)	8.7(27.4)	13.4(42.1)	31.9(100)
2018年	9.2(45.5)	3.7(18.3)	7.3(36.2)	11.0(54.5)	20.1(100)
2019年	27.2(65.9)	5.6(13.4)	8.5(20.6)	14.1(34.1)	41.3(100)
2020年	26.7(54.3)	7.6(15.5)	14.9(30.2)	22.5(45.7)	49.2(100)
2021年	22.1(41.5)	8.5(16.0)	22.6(42.4)	31.1(58.5)	53.1(100)
2022年	25.2(46.6)	7.2(13.3)	21.7(40.0)	28.9(53.4)	54.1(100)
2023年	12.7(24.6)	9.5(18.4)	29.4(57.0)	38.9(75.4)	51.6(100)